

小山町制施行100周年・南足柄市制施行40周年記念事業

きんたろう議会の記録



平成24年12月21日（金）開催

きんたろう議会

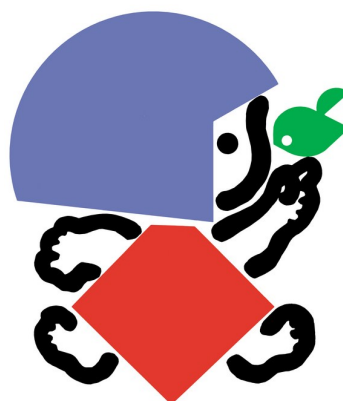
目

次

I	きんたろう議会事業日程・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
II	きんたろう議会出席者等・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
III	議会前の様子（会議室・委員会室・議場）・・・・・・・・	3
IV	小山町長あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
V	南足柄市長あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
VI	一般質問と回答・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6～17
VII	南足柄市議会議長あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	18
VIII	小山町議会議長あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	19



小山町の金太郎シンボルデザイン



南足柄市の金太郎シンボルマーク

I きんたろう議会事業日程 平成24年12月21日（金）

1 会議室にて

- (1) 小山町議会議長あいさつ
- (2) 南足柄市議会議長あいさつ
- (3) きんたろう議会議長役あいさつ
- (4) 議場入場

2 委員会室にて

- (1) 南足柄市当局と小山町当局との顔合わせ
- (2) 議場入場

3 議場にて（会議前）

- (1) 小山町職員の紹介
- (2) 南足柄市職員の紹介
- (3) 議員の紹介

4 きんたろう議会（午後2時19分開始～午後3時51分終了）

- (1) 日程第1 会議録署名議員の指名
- (2) 日程第2 会期の決定
- (3) 日程第3 小山町長あいさつ
- (4) 日程第4 南足柄市長あいさつ

(5) 日程第5 一般通告質問

- | | | |
|------------------------------|--------|-------|
| ①足柄峠、金時山を利用したまちづくりについて | 南足柄市議会 | 加藤 恵三 |
| ②両市町の交流事業について | 小山町議会 | 阿部 司 |
| ③ 1 南足柄市・小山町の交流事業について | 南足柄市議会 | 内田 克己 |
| 2 富士箱根伊豆交流圏市町村サミットに対する要望について | | |
| ④ 1 きんたろうサミットについて | 小山町議会 | 池谷 弘 |
| 2 足柄古道の整備及び活動について | | |
| ⑤両市町が手を携えて実行する地域振興について | 南足柄市議会 | 岡本 俊之 |
| ⑥ 1 仮称金太郎有料道路について | 小山町議会 | 湯山 鉄夫 |
| 2 地方自治体の道州制への動向について | | |

- (6) 南足柄市議会議長あいさつ
- (7) 小山町議会議長あいさつ

Ⅱ きんたろう議会出席者等

出席議員

南足柄市

1 番	岡本 俊之君
2 番	菅原ヒロミ君
3 番	小林 正君
4 番	高田 三郎君
5 番	湯川 素子君
6 番	村上 博君
7 番	加藤 恵三君
8 番	星崎 健次君
9 番	保田建一郎君
10 番	内田 克己君
11 番	加藤 洋一君
12 番	石川貴久雄君
13 番	石田 久良君
14 番	渡辺 円一君
15 番	服部 俊作君
16 番	大川 憲司君

小山町

1 番	阿部 司君
3 番	池谷 弘君
4 番	高畑 博行君
5 番	桜井 光一君
6 番	渡辺 悦郎君
7 番	米山 千晴君
8 番	湯山 鉄夫君
9 番	梶 繁美君
10 番	池谷 洋子君
11 番	込山 恒広君
12 番	鷹嶋 邦彦君
13 番	真田 勝君

欠席議員 なし

説明のために出席した者

南足柄市

市長	加藤 修平君
副市長	石田 和則君
教育長	府川 治三君
企画部長	加藤 孝之君
総務防災部長	柏木 勤君
市民部長	奥津 雄二君
福祉健康部長	古屋 盛浩君
都市経済部長	加藤 廣志君

小山町

町長	込山 正秀君
副町長	土村 暁文君
教育長	天野 文子君
企画総務部長	小野 巖君
経済建設部長	後藤 栄一君
住民福祉部長	土屋 礼二君
教育部長	高橋 忠幸君

職務のために出席した者

南足柄市

議会事務局長兼次長	石川 昇一君
〃 次長補佐	山岸 和規君

小山町

議会事務局長	田代 順泰君
--------	--------

会議録署名議員

南足柄市議会議員1番 岡本 俊之君

小山町議会議員1番 阿部 司君

Ⅲ 議会前の様子（会議室・委員会室・議場）



▲小山町議会議長あいさつ



▲南足柄市議会議長あいさつ



▲きんたろう議会議長（南足柄市副議長）あいさつ



▲南足柄市議会議員と小山町議会議員（会議室）



▲南足柄市と小山町の当局顔合わせ（委員会室）



▲議席順に自己紹介をする議員（議場）

IV 小山町長あいさつ

本日は小山町制施行100周年、南足柄市制40周年ということで、金太郎に縁のある両市町の議会が、こうして県境を越えて「きんたろう議会」を開催しましたことを大変嬉しく思う次第でございます。すでに、御案内のとおり、両市町は足柄峠の笛まつりを通して、また防災協定を通して仲良くお付き合いをしてきた市町であります。足柄峠の笛まつりにおきましては、今年で41回を数えることができました。これは、先輩方々の御尽力の賜物と敬意を表したいと思います。

さて、今日の議会でございますが、南足柄市の議長さん、小山町議会の議長さんのお二方が去る9月の笛まつりで御相談の上で相成ったと伺っているわけでございます。

今日のはるばる、小山町まで南足柄市の議会の皆様方お越しいただきまして、誠にありがとうございます。また加藤市長様はじめ市の職員の幹部の皆様方、本当にありがとうございます。

こうして今日お互いに気持ちがいよいよ強くなったかなと。金太郎の生誕の地「小山町」、金太郎のふるさと「南足柄市」、これから両市町、金太郎を通してこれから大いに振興を図って、互いにこの地域を素晴らしい地域にして行こうではありませんか。どうかよろしくお願いします。



▲ 小山町長あいさつ



V 南足柄市長あいさつ

皆様方こんにちは。本日ここに小山町制施行100周年、南足柄市制施行40周年を記念いたしまして、小山町議会、南足柄市議会の合同による「きんたろう議会」がここに開催をされましたことを誠に御同慶に堪えません。心から共々お祝いをしたいと思います。

また、常日頃から、小山町の皆様方には、足柄峠の笛まつりを始め小山町の富士山金太郎夏祭り、あるいは本市の足柄金太郎まつり等の観光行事を通して、多くの地域住民の皆様や各種団体など幅広く交流させていただいていることに対して、この場を借りて厚く御礼申し上げたいと思います。

また今回、「きんたろう議会」という形で、お互い意見交換の場を設定されました議会の皆様にご心から敬意を表したいと思います。

御承知のように、小山町さんと南足柄市は、万葉の時代から足柄峠を挟んで、交通の要衝、そして交流点にございまして、様々な地域の人が行き交う町として栄え、個性的で多彩な地域文化を育んできた、そのように承知しております。県境を越えた交流の歴史は古いものをございまして、本市といたしましても、将来に向けてなお一層、小山町さんとは交流、連携を図って参りたいと考えています。今回の「きんたろう議会」の開催によりまして、両市町の結び付きが更に深まるとともに、この地域一帯が豊かな自然と歴史、そして文化などの資源を十分に生かしながら、より一層活性化し、発展することを大いに期待しております。本日はどうかよろしくお願い申し上げます。ありがとうございます。



▲ 南足柄市長あいさつ



VI 一般質問と回答



きんたろう議会議長 南足柄市副議長 村上博君



議長介添役 小山町副議長 鷹嶋邦彦君



「足柄峠、金時山を利用したまちづくりについて」

質問者（南足柄市議会7番 加藤恵三君）



南足柄市議会7番 加藤恵三君

まずは、小山町の町制施行100周年、誠にありがとうございます。簡単に100年と申しますが、幾多の時代の変遷を経る中で、たゆまざる努力と確固たる信念を持って自治体運営を行ってこられた小山町の皆様に対して、心から尊敬の念を抱くばかりでございます。

私たち南足柄市も、ますますの努力とたゆまざる精進を重ねる必要があると強く感じております。

さて、この度は小山町議会と南足柄市議会の間において過去に例のなかった画期的な試みとして「きんたろう議会」を開催することになりました。実施に向けて御努力くださった関係者の皆様に対しまして、心よりお疲れ様と申し上げたいと思います。

それでは通告に従い、足柄峠、金時山を利用したまちづくりについて質問をさせていただきます。
いにしえの時代、関西と関東の国の境を成すのが足柄坂でした、現在は静岡県小山町と、神奈川県南足柄市の県境を成し足柄峠と言われています。古来より、箱根の山と足柄峠は人の往来を阻み、旅人にとっては大変な難所であったと書物に記されております。

しかし、矢倉沢地区の人たちにとっては、小山町は生活圏であり、経済圏の一部でもあったため頻繁に行き来していた歴史が残っているようです。

私も矢倉沢出身の議員ですから、小山町との交流の様子については地元の長老の方に話を聞く機会がよくあります。

また、南足柄市の地藏堂地区のお嫁さんの半数近くは、小山町や御殿場から嫁いで来られた方ばかりであります。

そのような地域間の深いつながりの中で、私たちは子供の時、学校の遠足で行く先は、金時山や足柄峠がほぼ定番の場所でした。「聖天さんの池は決してかき回してはいけないぞ、どんなに晴れても池をいじ

ると必ず雨が降るからな。」と言われ、「そんなこと迷信だ。」と言いながら池をいじって、本当に雨に降られて往生した経験が一度ならずあります。

また、長老の話では、「かつて聖天さんの祭礼には大勢の人が集まったもんだ。そうすると必ず小山の若い者と、矢倉沢の若い者との間で争いが始まる。そんなことが毎年の恒例行事みたいな時代もあった。」などの話もよく聞き及んでおります。

聖天さんの池の迷信や、毎年の祭礼のことを知っていて、足柄峠まで足を運ぶ人がどのくらいいるのでしょうか。小山町と南足柄市は、足柄峠を軸として良き隣人関係を築いていたことと思われます。

現在は、足柄峠を越える道路も整備され、車で簡単に行き来が可能になっているにもかかわらず、かつてのように強い絆で結ばれ、近しく、また親しい交流がなされているという実感がなかなか湧いてこないのは私だけなのでしょうか。足柄峠は静岡と神奈川の県境であるということだけで、かつてのように物理的難所ではなくなったにもかかわらず、現代は精神的な難所と化してしまっているのでしょうか。小山町と我が南足柄市は近くて遠い隣人となってはなりません。

私は、小山町と南足柄市との間に横たわる閉塞感を打破し、両自治体の地域振興に寄与し、未来に向けて親しく交流を続けていける施策の一つとしてスポーツイベントの開催を提案いたします。

天下の難所と言われた足柄峠を利用し、仮称「金太郎マラソン」又は「金太郎駅伝」のイベント開催はどうでしょうか。県域を越えた自治体同士が共同でイベントを開催する。大きな宣伝効果が得られ、活性化が想定されるイベントになるであろうと確信いたしております。私は、このイベントの実現を想定して、小山町から南足柄間を走ってみました・・・実際は車でですが。小山町健康福祉会館から足柄峠を下り、南足柄市役所まで、約21キロメートル、フルマラソンのちょうど半分の距離です。

小山町と南足柄市の発展と、友好のために仮称「金太郎マラソン」又は「金太郎駅伝」の開催実現に向けて、込山小山町長はどのようにお考えになられるかお伺いいたします。込山町長の前向きななおかつ積極的な御答弁をお願いして、私の質問を終わります。

答弁者 （小山町長 込山正秀君）

足柄峠、金時山を活用したまちづくり、金太郎マラソン又は金太郎駅伝の開催についてであります。

矢倉沢御出身の加藤議員から、小山町との様々なお付き合いをお聞きし、改めて、隣人としての交流の歴史を確認することができました。

南足柄市と小山町との交流が深まることは、県を越えた交流であるからこそ、両市町の地域振興に寄与するものと考えます。

また、スポーツイベントは、人と人とが友好を深めていくために重要な役割を果たすものの一つとして、有効なものと考えております。

中でもマラソンや駅伝大会は、近年、愛好家の増加やテレビ、マスコミで多く取り上げられるなど、注目のスポーツイベントであり、貴市周辺では南足柄市制記念駅伝競走大会をはじめ、市町村対抗「かながわ駅伝」競走大会、足柄上地区一周駅伝競走大会などが、また当町周辺では、静岡県市町村対抗駅伝大会や富士マラソンフェスタ、小山町町内一周駅伝大会など盛んに行われております。

このようなスポーツイベントの開催には、交流人口の増加による経済効果が期待されており、貴市との共催での開催となれば、県境をまたぐ大会として、その効果は他の経済効果にまで波及するものと考えております。

もちろん、足柄峠を利用したスポーツイベントの開催は、長時間にわたる交通規制など、地域住民の皆様の御理解と御協力を得なければできないことでもあります。

また、峠越えの安全確保や緊急車両搬送路の確保など、多くの課題も想定されます。

まず、両市町の行政と体育協会、陸上競技団体等での意見をまとめることから実施していきたいと考えております。

その際には、両市町の協力関係が大切と考えますので、よろしくお願ひいたします。



小山町長 込山正秀君

「両市町の交流事業について」 質問者（小山町議会1番 阿部 司君）



小山町議会1番 阿部 司君

本日は両市町の交流に関して御質問をさせていただきます。

本日、南足柄市の皆さんと「きんたろう議会」が開催される運びとなり、非常に光栄であり、開催に御苦勞なされた両市町の関係者に心から感謝を申し上げます。

さて、御市とは足柄峠笛まつりを通じ、以前から交流を深めてまいりました。回数も今年で41回目、小学生による綱引き「国取り合戦」を初めて7回目という事でございます。昨年は負けましたけども、今年は我が町が接戦の末、勝利を収める事ができて、本当に嬉しく思っております。

県境を接する両市町として地域の発展のため、お互い更に理解を深め、色々な交流を通じて環境を整備して行

く必要があると考えます。

このきんたろう議会が、それぞれの記念行事のただの話題集めで終わるだけでなく、両市町の将来の発展に少しでも寄与出来るよう、進化させて行きたいものです。そのためには、我々議会の付き合いだけでなく、市民、町民レベルの交流がとても大切であると思われま

す。何事も最初から大成功するとは思いませんが、お互い無理をせず、小さな事から一步一步積み重ね、徐々にその輪を大きくしていけば良いと思うのです。

将来、あの時交流して本当に良かったと思えるよう、お互いこれから頑張っていきたいと思

います。そこで、以下の質問をさせていただきます。

1 件目は、市民・町民レベルなど、つまり民間レベルでの交流を充実するための体制づくりについては、どのように考えておられますか。

2 件目、スポーツ交流として金太郎杯を創設し、その争奪戦として各スポーツ連盟に働き掛けての両市町の連盟戦優勝チーム同士の対戦、両市町民を対象としたゴルフ大会やパークゴルフ大会、また議員同士のソフトボール大会やゴルフ大会の開催などが考えられますが、これらの実施については、どのようなお考えをお持ちですか。

3 件目、文化の交流として、両市町が行っている文化祭、芸術祭等への両市・町民作品の出品や出場などが考えられますが、これらの実施については、どのようなお考えをお持ちですか。

4 件目、食等の交流として、旬の物産展を南足柄市、小山町で定期的の実施し、それぞれの特産品をPRし、地域振興を図るための交流が考えられますが、旬の物産展の実施については、どのようなお考えをお持ちですか。

また、最近、地域おこしの一環としてB - 1 グランプリが有名ですが、B - 1 ならぬ南と小の頭文字を取ったM - O グランプリの開催が考えられますが、M - O グランプリの実施については、どのようなお考えをお持ちですか。

5 件目、その他の交流事業として、お互いの県境に接したところに有名な金時山がありますが、毎日のように登山する人もいると聞いております。登山者の回数に対し、「ウェルカム」と「有難う」の意味を込めた認定証のようなものを両市町から交付することが考えられますが、この認定証の実施については、どのようなお考えをお持ちですか。

6 件目、市長も観光に相当力を入れていないと聞いておりますが、我が町と交流を図るために今現在考えている計画があれば是非教えていただきたい。

答弁者（南足柄市長 加藤修平君）

まず、市民、町民レベルでの交流を充実するための体制づくりについての御質問ですが、地域間交流や自治体間交流を活力あるものにするためには、何といたっても民間レベルでの交流が極めて重要であると考えます。その中で、行政の役割として、地域住民の皆様や市民活動団体の皆様、事業者など民間との連携を図り、交流に関する情報の収集や発信をするとともに、交流促進の仕組みづくりを行うなど、側面からの支援が重要であると考えております。

いずれにいたしましても、まずは両市町の様々な方面の方々に御参加いただき、意見交換をする場が必要であると考えております。

次にスポーツ交流についての御質問ですが、御質問にありますように、足柄峠の笛まつりで実施されて

いる「国取り合戦」は大変な盛り上がりを見せております。このような中、両市町の競技大会で優勝したチーム同士が、両市町にゆかりのある「金太郎」を冠した「金太郎杯」をかけて対戦することや、両市町の愛好家が集うゴルフ大会やパークゴルフ大会を開催することは、両市町のスポーツ振興に寄与するものと考えていますし、スポーツを通じた両市町民の交流は、更に盛り上がりをもたせたいと考えています。

また南足柄市民が利用するゴルフ場のほとんどは小山町でございまして、相当の税金を落としていると思います。地域の活性化にもなっていると思っています。

南足柄市の体育協会に加盟している諸団体の競技大会も、年間を通して数多く実施しているところでもあり、実施方法や種目、日程等を、両体育協会等と実現に向けて協議していきたいと考えているところでございます。

次に文化の交流についての御質問ですが、南足柄市の市民文化祭は市とともに南足柄市文化団体連盟を主催団体として、毎年9月下旬から始まり、11月上旬のメイン開催日を設定して実施しています。

現在、金太郎まつりには、小山町さんからも踊りの団体、舞踊愛好会の皆様に御参加していただいておりますし、小山町の「富士山金太郎夏まつり」にも、南足柄市から舞踊連盟の方々が参加させていただいております。交流が図られているところであります。

文化祭等への参加についても、小山町さんとの交流は大切なことと考えておりますので、各主管団体においても議論していただきながら、実現に向けて両市町で協議をしていければと思っています。

次に、旬の物産展の実施について、そしてM-Oグランプリの実施についての御質問ですが、南足柄市には足柄金太郎まつり、そしてASHIGARA産業フェアなどのイベントがあります。小山町でも「富士山金太郎夏まつり」など様々なイベントが行われています。

また、南足柄市においても大型直売交流センターの開設の準備をしているところです。

このようなイベントやそうした場を活用して、御提案のような旬の物産展を両市町で連携してPR、開催したら面白いと考えます。

お互いに物産展を開催することの相乗効果で、より地域の活性化につながるものになるのではないかと期待するところであります。

そしてM-Oグランプリについてですが、食の交流事業として、物産展等を開催した時に、出店した飲食店の優劣をB-1グランプリのように決めたらどうかとの御提案の趣旨かと思いますが、こちらも旬の物産展と併せて検討をしたいと考えます。

どちらも農業と観光、商業等を合わせた地域活性化策だと思います。M-Oグランプリが両市町を売り出す起爆剤になっていくかもしれません。両市町で検討して参りましょう。

次に金時山登山者の認定証実施のお尋ねですが、金時山は箱根山の外輪山の最高峰、標高1,213メートルで、山頂からは西に富士山、南に芦ノ湖が展望でき、箱根地域の中でも人気の高いハイキングコースになっています。

金時山には、年間12万人近い登山者がおります。

このように、多くの登山者がある金時山を、更にPRし、登山者の増加を図る、御提案の認定証について、南足柄市・小山町、箱根町、御殿場市の関係各市町と協議をしていければと考えております。

次に観光計画についての御質問ですが、足柄峠は往古より西国からの関東への玄関口として知られているところでございます。

その足柄峠において、両市町が笛まつりを開催し、お互いの交流を深め、今年も盛大に開催され、41回目を迎えたところです。

また、お互いに金太郎ゆかりの地でもあり、県境を越えて、お互いが手をつなぎ合って、この地域の振興に尽くさなければならないと考えているところです。

具体的には、まずは「足柄峠笛まつり」や「富士山金太郎夏まつり」「足柄金太郎まつり」など従来の交流イベントを拡充していきたいと考えます。

また、足柄古道を活用したウォーキング大会の共同開催なども検討していければと考えております。

両市町をつなげる足柄古道や足柄峠は、古事記や万葉集などでも記述され、足柄峠からの富士山の眺望は素晴らしいものがございます。

これらの自然、歴史等の資源を生かし、この地域を一体として、両市町で積極的にPRをし、都市住民を呼び込み、交流人口を増大する施策を両市町で考えていけたらと思っています。



南足柄市長 加藤修平君

「1南足柄市・小山町の交流事業について 2富士箱根伊豆交流圏市町村サミットに対する要望について」

質問者（南足柄市議会10番 内田克己君）



南足柄市議会10番 内田克己君

通告に従いまして、私は1南足柄市・小山町の交流事業について、2S K Y圏市町村サミットに対する要望についての2点を質問させていただきます。

1 問目、南足柄市・小山町に共通するものとして、両市町の県境を成すのが足柄峠であります。足柄峠は、言うまでもなく金太郎を生み出しました。金太郎に対しましては、両市町ともに相譲らぬ形になっております。この問題は永久に決着がつかないものと思いますが、そこは頭を使い、これを地域振興の一環とすべきではないかと思えます。

古来、畿内から関東を見て「あづま」と呼んでおりましたが、その境目は相模の国と駿河の国の国境、足柄坂でありました。今では静岡県小山町と南足柄市の県境を成し、

足柄峠といいます。標高は759メートルであります。この坂より東という意味で「坂東」、常陸国風土記にも「古は相模の国の足柄岳坂より以東の諸県を吾姫国と称う」と書いてあります。

「足柄道」が官道として整備されたのは奈良時代以後であります。足柄関が設置されたのは昌泰二年（899年）。同時に東山道の碓氷関も設けられましたが、設置を命じる太政官府にはしゅう馬の党が群盗化し荷駄を収奪しており、上野の国からの申請によると、その中心は相模の国の者のようだと書かれてありました。我が市議会議員にもそのまつえいがいるかもしれません。手を焼いた上野の国が相模の国と諮って朝廷に申請したため、2つの関が設けられたのでした。

今、南足柄市矢倉沢の地藏堂から足柄道を登ると「足柄関所跡」の標柱が立っております。このように歴史的にも非常に価値のあるこの一帯を再開発しない手はないと考えます。

現在、笛まつり、金太郎綱引きを始めとする文化交流も行われておりますが、この地点は富士山を始めとする駿河の国と、相模湾を始めとする相模の国が一望できる一大パノラマを誇る景勝地であります。この足柄峠、万葉公園を一体的に整備し、両市町の観光拠点とすべきではないかと思えます。本市は南足柄・箱根間道路の整備を神奈川県に対して強く要望しているところでありますが、南足柄市・小山町間道路の整備も行い、観光立国日本を課題としている国土交通省にも働き掛け、地域振興を図るべきではないかと思えます。

そのためには、笛まつりの充実を図るとともに、いろいろな事業展開、例えば地形を生かしたマウンテンバイクの全国大会などを南足柄市と小山町で共同開催してはいかがでしょうか。そして、将来は県境を越えた合併まで考えるべきかと思えますが、町長の見解をお伺いいたします。

2 問目として、現在S K Y圏市町村サミットは隔年で開催されておりますが、ただ単に事業実績の報告や交流会に終わっているのが現状であります。せっかく3県の知事、副知事等が一堂に会する場です。富士箱根、富士五湖等は日本が世界に誇れる一大観光地です。この地域の道路整備は全て東京に向かって整備されているのが現状です。一部周遊道路はありますが富士五湖周辺から小山町を通り南足柄市を抜けて小田原市への道路整備が不完全であります。

この道路は箱根外輪山の麓を通る国道としてS K Y圏市町村サミットに参加している各市町村に提唱し、関係市町村が国や県に要望してはと思います。御殿場には自衛隊騎門駐屯地がありますが、国道246号線は大規模災害において機能しなくなるおそれがあります。特に南足柄市・小山町間の道路は防災上トンネルが最適だと思います。町長の見解をお伺いいたします。

以上2点について一般質問とさせていただきます。



足柄峠笛まつり（綱引き）

答弁者（小山町長 込山正秀君）

初めに、南足柄市・小山町の交流事業についてのうち、足柄峠・万葉公園の一体的な整備についてであります。

足柄峠は、古来から相模の国と駿河の国の国境であり、また、南足柄市側の足柄万葉公園からは、相模湾や江ノ島、三浦半島までの眺望が、そして、小山町側の足柄城址からは、世界文化遺産登録を控えた富士山を、その裾野から山頂まで雄大に眺めることができる、それぞれのまちを代表する風光明媚な名所であります。

そこで、議員御質問の一体的な整備であります。これまでは、足柄峠が県境をまたいでいることから、道路や公園の整備について、それぞれの立場から事業を進めてきたところであります。

議員御指摘のとおり、足柄峠には、古来の「足柄道」など南足柄市と小山町に共通した多くの価値のある観光資源があります。

そして、万葉公園と足柄城址は、車で5分と掛からず移動が可能なことから、お互いの良さを生かし、東は相模湾、西は富士山と、素晴らしい景色を一度に堪能できる観光地として、両市町で検討を加えなら、案内板の整備や歴史的資源の掘り起こしをするなど、一体的な整備をすることは可能であると考えております。

次に、笛まつりの充実と様々な事業展開についてであります。

今年で、41回目を数えた足柄峠笛まつりですが、県境をまたいだ市町が共催するお祭りという珍しい形態で、これほど長く開催し続けてこられたのも、南足柄市の皆様と小山町が、足柄峠という歴史に満ちた名所を大切にしてきたたまものであります。このお祭りの長い歴史の中では、様々な取組が行われ、現在では、お祭りのフィナーレを飾る両市町の小学生による領地争奪綱引き大会が、大変な盛り上がりを見せております。

今後も両市町の住民が、交流できる場として、また、両市町を内外にPRできるイベントとして、足柄古道の活用などを通して、笛まつりの更なる充実を図って行きたいと考えております。

次に、県境を越えた合併についてであります。

議員御指摘のように本町と南足柄市とは共催による笛まつりをはじめ、各種事業に取り組んでおります。更に、静岡、神奈川及び山梨3県の知事と関係する38市町村の首長が集う富士箱根伊豆交流圏市町村サミットが隔年で開催されるなど、様々な枠組みで広域圏における行政の取組がなされております。このことから、国の道州制の検討経過を踏まえ検討してまいりたいと考えております。

次に、東富士五湖周辺から小山町、南足柄市を経由し、小田原市までの道路網整備についてであります。

現在東西を走る道路網は、東名高速道路、国道1号、国道246号等、大動脈となる道路が整備され、更に平成32年には、新東名高速道路の静岡県御殿場ジャンクションから神奈川県へつながる予定となっております。現在整備事業が着々と進んでおります。

それに比べ、南北を結ぶ道路網は、東富士五湖道路、国道138号と県道がこれをつないでいる状況であります。

その中でも、小山町から一般道路を使用し山梨、神奈川両県へ行くには、必ず峠を越えることを余儀なくされ、安全な交通の確保ができていないとも言える状態では無いことを認識をいたしております。

また、平成22年9月の台風9号の災害の時には、国道246号が通行止めとなり、一般道路が緊急応援物資の輸送路として使用されたことは事実であり、防災の面からも重要な道路であることを再認識させられました。

現在、両市町を結ぶ主要地方道「御殿場大井線」は、神奈川県側の拡幅改良工事が進んでおり、大型車の通行が可能であるのに対し、静岡県側の道路整備の遅れや、先に申しましたように、災害時の輸送路としての実績があったことなどを強く訴え、県道の拡幅改良工事の必要性を要望しているところであります。

議員、御提案の両市町を結ぶトンネルの整備は、人命救助や災害復旧支援の迅速化につながり、防災性の向上が図られ、また、将来的には国道への昇格、整備について実現すれば、重要な南北道路の位置付けとなり、人的交流や観光・物流など文化、経済の発展に大きく寄与するものと考えております。

今後、道州制も見据えた中で、県境間の道路整備問題を、富士箱根伊豆交流圏市町村サミットの場合において、提唱していくことが最も重要であるため、両市町が協力し進めてまいりたいと考えております。



小山町長 込山正秀君

「1きんたろうサミットについて 2足柄古道の整備及び活動について」

質問者（小山町議会3番 池谷 弘君）



小山町議会3番 池谷 弘君

本日は2件の質問をさせていただきます。

まず1件目は、金太郎サミットについてであります。

小山町と南足柄市は、金太郎にゆかりのある地であることを日本中に発信して地域の活性化を推進しております。

これからは地域の時代であり、各地域がその地域の特産品や観光資源を活用して活性化することで停滞感がある日本を変えていくことができると考えております。

小山町と南足柄市では、金太郎ゆかりの地として、平成8年に南足柄市、平成12年に小山町で観光協会等の主導により金太郎ファミリーの集いが実施されたこともあります。

日本中には、金太郎にゆかりのある土地が秋田から福

岡まで多数あると聞いております。

そこで、金太郎を縁に、これらゆかりのある地と金太郎ネットワークを組織して、新たに金太郎サミットを行い、住民の交流を図ることで地域活性を進めていきたいと考えております。

開催地については、金太郎に特にゆかりのある小山町と南足柄市とで交互開催を行うことでサミットの継続的な活動ができると考えています。

サミット開催について、市長のお考えを伺います。

2件目は、足柄古道の整備及び活用についてであります。

足柄古道は、日本武尊も越えたといわれており、古来から東日本と西日本を結ぶ重要な交通路で多くの史跡があります。

この由緒正しき古道を風化させず、整備して子孫に残していくことが必要です。

また、南足柄市側と合流する足柄峠では、小山町の富士箱根トレイルにつながる道でもあります。

南足柄市と小山町は、これからも手をつないでいく仲間として足柄古道に共通の道標を整備し、一体感を出してここを訪れる方々に、足柄古道から富士箱根トレイルに安心してハイキングしていただくことも必要と思います。

最近では、「山ガール」なる言葉があるように、若い世代でのハイキングや登山ブームがありますので、足柄古道は有効な資源の一つではないかと考えております。

これは、私の夢の一つではありますが、南足柄市民と小山町民が協力し、おもてなしを行う、足柄古道と富士箱根トレイルをルートとする駅伝大会やトレイルラン大会を誘致したり、笛まつりの際に足柄古道ハイキングを実施できたら良いと思っております。

ところで、小山町分の足柄古道については、足柄峠、赤坂古道、戦返線、足柄宿を通るとされているところですが、既にハイキング道として位置付けをしております。今後は、看板等の設置や観光パンフレットへの掲載等によるPRもしていく必要があると考えておりますが、御市では今後、足柄古道について、どのように活用していくお考えがあるのか。また、活用していくためには、今後どのようなことをされていくお考えがあるのかお伺いします。

以上で質問とさせていただきます。よろしくお願いいたします。



足柄峠笛まつり（雅楽の演奏）



足柄峠笛まつり（石碑）

答弁者 （南足柄市長 加藤修平君）

最初に金太郎サミットについてでございます。申すまでもなく、金太郎は、全国的にも知名度が高く、地域活性化を図る上でも、重要な歴史資源、観光資源であると考えております。

御質問にありましたとおり、小山町や南足柄市以外にも、長野や京都、兵庫など、金太郎にゆかりのある土地が、全国各地にあります。既に小山町におかれましては、京都の福知山市あるいは岡山県の勝央町と友好都市を締結されているわけでございます。そうした各地とネットワークを結び、金太郎サミットを行うことは、地域活性化や交流人口の増加につながる有意義な試みであると思います。

いずれにいたしましても、金太郎ネットワークの組織化と金太郎サミットの開催につきましては、金太郎に特にゆかりのある小山町と南足柄市が交流を深め、関係市町村とも連携を図るとともに、行政だけでなく、民間の方々も巻き込みながら、検討していくことが最良、最善であると考えております。

次に足柄古道の整備及び活用についてでございますが、足柄古道については、南足柄市においてもハイキングコースとして一部を活用しているところであります。

また、10月13日に開催した、市制施行40周年記念事業の第1回金太郎ウォークにおいても、足柄古道をウォークの一部として歩いております。

歴史探訪コースの部では、南足柄市観光ボランティアガイドの会が史跡、名勝等を参加者に説明しながらウォーキングを楽しむコースになっており、参加者からは好評を博したところであります。

足柄古道は、小山町と南足柄市を結ぶ、古事記や万葉集などでも記述されている由緒ある古道であり、古代ロマンあふれる道であります。

そのような中で、南足柄市商工会が「金太ロード」として、足柄地域内の主要幹線道路に「金太郎」にちなんだネーミングをする活動をしています。

両市町を結ぶ県道御殿場・大井線や足柄古道にもネーミングをしていくと聞いております。

南足柄市においても、足柄古道をハイキングコースとして位置付けして利用しているところですが、観光資源としても大いに活用したいと考えております。

足柄古道を小山町と一緒に看板等を整備することや、古道を活用したウォーキング大会などのイベントを共同で実施することも一つの案だと考えております。

この地域は、金太郎のゆかりの地でもあり、富士山の眺望も素晴らしく、自然も豊かな場所です。

足柄古道をはじめ周辺地域を一体として、まずは両市町で積極的にPRをし、都市住民を呼び込むような施策を両市町で考えていきたいと考えています。



南足柄市長 加藤修平君



富士箱根トレイルのガイドマップ



金 時 山

「両市町が手を携えて実行する地域振興について」

質問者（南足柄市議会1番 岡本俊之君）



南足柄市議会1番 岡本俊之君

剤となることを望むものであります。また、相違点を認識するためには、双方の特性の違いを明確にし、良い点は伸ばし、不足している点はお互いに補い合う、そしてそれをどこまでやるのか、行政が方向付けを行うことが大切だと考えます。

何といたっても地域振興は、その地域の持つ資源を最大に生かすことであり、活用していくことです。

そこで、地域資源をどのように活用していくのかを考えた場合、経済交流が比較的に取り入れやすい施策だと思います。これは、単なる行政間の交流のみにとどまらず、同時進行として行政が地域振興に向けた情報を共有し、それを民間に情報発信しあい、民間パワーの活用を促し、商業・工業・観光等の各分野における経済的な交流のきっかけを作ることです。民間の、特に経済交流の場合、一度、相互の関係が構築できれば後は民間同士がそれを発展させます。その結果、地域経済が潤い、更なる果実が実るものと確信します。

現在、南足柄市では金太郎プロジェクトというNPO団体により、「まさかりシリーズ」を開発し、B-1グランプリへの参加やイベントの開催等を行っています。また、商工会や観光協会でも足柄金太郎まつりやASHIGARA産業フェアなどを行っているところです。当然、御町に商工会や観光協会でも足柄金太郎まつりやASHIGARA産業フェアなどを行っているところです。当然、御町にもこのような組織又は団体があり、活動しているものと思います。そこで、行政がそれらを結ぶきっかけを作ります。まず、地域経済及び地域観光等に携わる事業者若しくは商工会、観光協会、まちおこしのNPO法人等が情報交換できる場を行政が設け、民間の交流会、言わばサミットのようなものを行うべきです。その後は、各種業種等の分野別、例えば農業や工業などの民間の交流、ボランティア及び福祉団体の交流等が行われる環境の整備が必要だと考えます。

ちなみに私が経営している会社は、あの福島第一原発の事故の折、放水作業で活躍したコンクリートポンプ車を使ったコンクリート圧送施工の事業を行っています。最近では、御町の小山中学校の増築工事や一昨年の台風9号での被害を受けた復旧工事等で小山町の建設業者さん数社と取引をさせていただいております。御町へ貢献すると共に、当社の持つコンクリート圧送の技術を買っていただき生活をさせていただいております。正に共存と言えるものです。地域振興を経済的な観点で捉えた場合、既に両市町の間では、民間レベルの、特に商売については個々の交流ができています。それらを更に拡大するためのきっかけづくりが、正に両市町の取り組むべき施策だと考えます。

今後、両市町が更なる発展をしていくための施策として、地域振興に向けた経済交流について、私が思うには、まずは人々の交流を図ることから始め、人や物の流通を図り、地域経済を活性化して行くことが、県境という垣根を取り払った成長戦略につながる重要なことと考えます。今後、本市との連携をしていくに当たり、どのような構想をお持ちか町長にお尋ねします。町長の前向きな御答弁をお願いします。

小山町制施行100周年、南足柄市制施行40周年を記念しての「きんたろう議会」誠におめでとうございます。私からは今議会において、「両市町が手を携えて実行する地域振興」について1点質問させていただきます。

南足柄、小山両市町がお互いの発展のために、地域振興を図る上で、一番考慮する課題は、それぞれに共通するもの、または、相違するものをしっかりと認識し、地域の特性を相互で活用することが重要であると考えます。共通するものについては、万葉集で歌われる足柄峠がその最たるものです。その足柄峠では毎年、足柄峠笛まつりが共催され、既に共有できる財産となっています。今年は両市町の施行40周年、100周年と銘打ち、盛大に行われ、多くの人が参加し、大変ににぎわいました。この取組の更なる充実と地域振興の起爆



足柄峠笛まつり（足柄ばやし）

答弁者 （小山町長 込山正秀君）

議員の御提案のとおり、両市町が手を携えて実行する地域振興のためには、民間レベルでの経済交流は、非常に重要であると考えております。南足柄市の「足柄金太郎まつり」や「あしがら産業フェア」と同様に、小山町でも「富士山金太郎夏まつり」や「産業祭」を実施しております。

この中で、例えば夏まつりでは貴市の「アサヒビール園」にお声を掛け、毎年出店していただいておりますし、産業祭についても、貴市が取り組まれている御当地グルメの「まさかりパン」を出品していただき、町民に広く知らしめる等、イベントにおいて積極的なPRを図って参りました。

現在小山町では、町内に立地する企業で組織する企業懇話会と、商工会に加盟する事業者が相互にプレゼンテーションを行い、ビジネスマッチングを図るための企業交流会を実施しており、その後の取引にもつながっております。

両市町においても、企業や商工業者による情報交換をはじめ、民間レベルの交流を深めることが、相互の経済発展につながると考えられますので、双方の商工会とも連携しながら、このような交流会を企画し、ビジネスチャンスの増大に努めて参りたいと考えております。



小山町長 込山正秀君



まさかりパン



足柄峠から見た富士山



傍聴席の様子



小山町の真田議長と南足柄市の大川議長

「1仮称金太郎有料道路について 2地方自治体の道州制への動向について」

質問者（小山町議会8番 湯山鉄夫君）



小山町議会8番 湯山鉄夫君

私は2つの課題につきまして、加藤市長にお尋ねしたいと思います。日頃は気楽なお付き合いの中ですが、本日は隣接する市町とは言え、南足柄市の市長に一般質問する、これに対して答弁を願うことは、前代未聞にして有益なことではないでしょうか。

地方自治法には 地方分権や地域主権が強調されている半面、中小の自治体は合併による集約が進展した状況下、双方の議員が首長に対して質疑をすることは 新たな議会活動への一翼になるように思います。

私は、南足柄市と小山町との間に強力なパイプを築こうとする、仮称にて「金太郎有料道路」について、次に同じ自治体共通の課題として今後の地方自治体の動向、特に道州制について聡明な南足柄市長の見解をお尋ねします。

質問1 といしまして、「仮称金太郎有料道路」に対す

る質問でございます。

ただいま、南足柄市の内田克己さんから指摘をされました、国内でも産業や経済の流通における重要幹線道路として、国道246号線や山梨県に通ずる国道138号線が自然災害等の通行不能、非常事態を想定した代替道路として、我が小山町から南足柄市にアクセスする道路を、箱根外輪山の麓を掘削施工でトンネルを建設することにより、御市をはじめ、両県の経済、産業、文化、人的交流を飛躍的に発展する事を期待しつつ、御市と我が町との間で話し合い、意見交換をいたした経験があります。以来、既に永い歳月が経ちました。当時は御市との交流は薄かった状況もあり、当時の御意見はフィルム工場に対する水利の影響、自然環境や水源に関する懸念と危惧が強調された経緯があります。バブル崩壊以前の時にて神奈川、静岡両県サイドでは共に好意的見解を示され、国は、「仮に施工するならば、日本道路公団になりましょう。通行は有料となる。」等、関係機関の助言がありました。しからばトンネル入り口として 静岡県側は県道大井線上の南無阿弥陀仏遺跡付近が良好ではないか、また方向は御市の地藏堂か、厚木小田原道路の方向にどうかと一方的見地から検討した経験があります。

じらい、今日までこの事は、静止、休止状態が続いて参りました。先ほど込山町長も申しましたが、我が小山町は、新東名高速道路の建設に向けて進んでいます。町境にはIC、町内にはPAに、スマートインターが計画されています。さらに東名足柄SAにスマートインターの要望もあり、南北には県道、国道あり、東名高速道路がありで、更に東西に金太郎有料道路が重なり接続するならば、道路交通の要所になります。南足柄市民の皆様や神奈川県の皆様にも自動車交通は、極めて利便性を増すことになります。この課題に対しまして、両市町の対じするところではありますが、御市と我が町との間で共通の認識に立って推進することにつきまして、市長の御所見を伺います。

質問2 といしまして、地方自治体の道州制への動向について伺います。

近年は、国政の動揺や自治体の行財政の悪化傾向にあり、行財政改革論がじゃっ起提起され、中小多くの町制は市制に吸収されるなど、静岡県内でも同じくいわゆる平成の大合併が行われましたが、今は収束平静状況にあります。次なる動きとして、道州制を見据えながら、広域連合や、中核市、政令市、特例自治市など現行の自治体組織を拡大し大都市化、広範囲な自治体組織に進める。そして、道州制に発展すべきとの政策論を進展する動きがあります。それによりますと、各県制を統廃合し、10程度の州制にする。神奈川県は南関東圏、我が小山町は名古屋を中心とした東海圏に属すとの線引きがされました。これに対して、静岡県東部及び伊豆地区の各市町は、名古屋圏と東京圏とはあらゆる面で価値観に大きな相違格差があります。 よって、南関東圏に編入を期待し、切望するゆえんであります。

この道州制が実行されるような事態が生じた時は御市と同一エリア、同一圏にと、御協力を願いたく存じますが、いかがでしょうか。

今、衆議院選挙は政党の乱立により過去にない混戦模様の選挙でありました。選挙民は大変に苦慮された選挙であったと思われます。道州制に関しましては自民党、公明党にみんなの党は道州制を発展させるとした公約を掲げ、特に自民公明の両党は5年以内に道州制基本法を制定する方針を提示されているのであります。また、第3極といわれた維新の会は中央集権中央政府を打破し、国を変える、中央主権から地方主権に移行すると強調されました。政府は地方自治の仕組みについて、全国知事会、市町村会、議会の

代表が参画している地方制度調査会での大都市制度の論議では現在の県制から政令市が独立した特例自治市にすることは見直しをすると結論が示されました。今後、国政の動きに注目しつつその変化・変革を捉え、隣接する市制と町制の2つの自治体が相互に連携を強め、将来的見地に立って対応して行くことは、有益な事と考えます。地方分権、権限移譲なる思想と、国政の変化に伴う整合性に地方自治体組織、行政は変革を余儀なくされるかも知れません。

本選挙の結果は政権交代であります。新政権、新政府による新たな政策や従来の継続政策の転換など、いろいろな局面が発生して来るものと思います。道州制を大きな課題としてその動向をにらみながら自治体の将来的方向につきまして、市長のお考え、御所見を伺いいたします。

答弁者（南足柄市長 加藤修平君）

初めに、「仮称金太郎有料道路について」でございますが、南足柄市と小山町を結ぶ道路整備につきましては、現在、神奈川県で県道78号線、いわゆる御殿場・大井線の足柄峠から相ノ川橋付近までの区間を交通の円滑化並びに自動車等の通行の安全性を図るとともに、静岡県側の観光地を結ぶルートの整備と位置付けて、幅員7メートルに向けた改良工事を実施しています。

この道路が整備されますと、神奈川県、県西地域及び小山町の活性化が図られるとともに南足柄市並びに小山町への災害時の緊急輸送路としての路線確保につながるものと考えております。

御提案をいただいた「仮称金太郎有料道路」の建設につきましては、2つの行政にとらわれず、将来的には静岡県、神奈川県、さらなる発展だけでなく、道州制も視野に入れた南関東地域を見据えた中での、素晴らしい提案と考えます。

今後、道州制に合せ、両市町で気運が盛り上がった中で、国、県を含めて検討をしていくべきものであると考えております。

次に地方自治体への道州制への移行についての御質問であります。道州制は、国の形そのものを組み替える大きな改革です。

市町村への権限移譲、税財源の配分の在り方など、国と地方の間でしっかりと議論が行われた上で、推進されることを期待し、しっかりとした制度設計が行われなければならないと考えております。

当市は、万葉の時代からの交通の要衝、交流点にあり、様々な地域の人々が行き交う街として栄え、個性的で多彩な地域文化を育んできました。

そこで、道州の区域につきましては、画一的な線引きに捉われず、地理的、歴史的特性や文化的条件などに加えて、小山町との地域間交流や観光事業等の連携の経緯、実績等も踏まえて、対応していきたいと考えております。また、具体的になってきたときには力強く小山町と協力して国等への働き掛けを行って参りたいと考えます。



南足柄市長 加藤修平君



小山町、南足柄市の当局席



小山町、南足柄市の議員席

VII 南足柄市議会議長あいさつ

大変お疲れ様でございました。ただいま席で真田議長と話を聞いていました。良かったなあとは思ってんですけど、たまたま41回目になります、南足柄市制40周年が始まって1回目からスタートしたのが笛まつりです。今回の笛まつりの中で、真田議長さんと込山町長さん、そしてうちの加藤市長が鍋を囲って、本当ならば綱引きで負けたのだから、富士山の頂上をもらえなかったということもあったんですけども、いろいろ話し合いをしている中で共同議会をやるということになりました。今回は、昨年は南足柄市の議会が当番で議会交流をしましたけれど、こういった議会は設けませんでしたけど、今回初めてで、本当に小山町の議員の皆様、そして議会事務局の皆様方には大変お骨折りしていただきまして、このような素晴らしい会場設定をしていただき感謝申し上げます。

今、私たちはどちらかというと神奈川県西部と案内するわけですけども、首都圏から見ると一番西部になるわけですけども、今までその西部の後ろを見なかったというのが本当のところだと思うんですね。

それで今回、足柄峠を上ってやはり相模湾も見えるし、富士山も見えるしということで、これを何とか活性化に結び付けることが将来必要だと。

今皆さんの一般質問を聞いていて分かったのは、町が活性化するということは何が必要かということ、人を交流させることが必要だと。人が交流すればお金も流れるんだろうなと。要するにこの「きんたろう議会」を1回で終わらせるのではなくて、今質問されました議員さんの答弁が検討で終わらないで、必ず実行できるまでやらないといけないということで、実行ができるまでやるということで、今後ともこの議会が進展しますことをお祈りしまして、簡単ではございますけど、御礼の挨拶といたします。どうもありがとうございました。



▲ 南足柄市議会議長あいさつ

VIII 小山町議会議長あいさつ

本日は「きんたろう議会」大変御苦勞様でした。皆様方の年末の何かと忙しい中、万障繰り合わせの中御出席いただきまして誠にありがとうございました。今回の「きんたろう議会」は小山町制施行100周年、南足柄市制施行40周年を記念し、開催をお願いしたものであります。当局の皆様の御支援のもと開催できましたことを心から感謝申し上げます。

県境を挟んで両市町の一般質問の内容を聞かしていただき、私も何となく一般質問をしたいなと、そのような中でまだ質問できるものもあるようです。出されなくて良かったと思うのが1、2ありますので、私も次回にはそのチャンスを与えていただけるのではなかろうかと期待しております。

そういう中で、今回両市町の首長さんをお願いしたのは、大きな風呂敷を広げてもらいたいと。自分でたたもうと思わなくて結構ですと、そんなようなお願いをしまして、今日もそれらしく広げていただきましたので、4つに結べないかもしれませんが、これは来年、再来年と大いに結んでいただきたいと思います。

このような機会がございまして、本来なら再質問もということも議員の皆さんからはお願いされたわけですが、峠を越して帰らなければならないものですから、その辺も配慮して再質問については次の意見交換会で親しくやっていただきたいと思いますと考えております。

先ほど、どなた様かの質問にありましたけれど、聖天さんのお祭りの時は若者が村や町でいろいろあったということですが、聖天さんの池をかき回すと雨が降るということは全く一緒なので、多分その辺は水に流していただけたのではなかろうかと思うわけです。

本日は大変ありがとうございました。本日のきんたろう議会が契機となり、両市町の交流が一層活発となることと、また次の機会があることを御祈念いたしまして、御礼の挨拶とさせていただきます。



▲ 小山町議会議長あいさつ



小山町制施行100周年・南足柄市制施行40周年記念事業

「きんたろう議会」の記録
平成25年1月発行
小山町議会・南足柄市議会